

令和7年度 群馬県多職種連携推進協議会（第16回）議事録

日時：令和7年12月11日（木）14:00～15:00

場所：ハブリッド開催（群馬県医師会／WEB（ZOOM））

出席者：長坂資夫、服部徳昭、鶴谷英樹、佐野公永、原 文子、清水奈保、神保京子、入山久美子、山路雄彦、都丸直樹、平野 哲、芝崎光弘、福田幸子（群馬県ホームヘルパー協議会事務局代理）、水間春夫、後閑善之、石田知里、山田圭子、狩野寛子、小川貴之、加藤木啓充、三俣和哉、山路聡子、高橋智之、浅見大介、遠間弘之、高橋知里

議題（1）群馬県多職種連携推進協議会ホームページ改修について

県医師会事務局より、ホームページのリニューアルについて説明を行った。本ホームページは、各団体がそれぞれの事業や取り組みなどを情報発信、情報共有、意見交換の活用を目的としている。今回の改修で、2つの機能を追加した。

1. 関係者専用ご意見窓口（施設からのご意見・ご要望）

- ・これは、医療・介護・福祉等の施設関係者のための窓口であり、患者や利用者側からの苦情窓口とは異なる。
- ・目的は、施設側が困っていることに関する情報を収集し、協議会で共有すること、そして行政への要望や対応策に繋げることである。一般の者からの投稿は受け付けていない。
- ・入力項目には、施設名、投稿者名、メールアドレス、電話番号、雇用体系、職業などの必須項目が設けられており、年齢や性別は任意項目である。
- ・ご相談内容に応じて、ハラスメント相談や苦情など、複数の項目をチェックでき、入力補助となるテンプレート機能も用意されている。
- ・投稿された内容は事務局が確認・承認し、最終的な問題点を整理した上で、行政等と情報共有を行い、具体的な取り組みへとつなげていく。

2. 多職種連携コミュニティ（専用掲示板）

- ・こちらはテーマごとの情報共有と交流の場となる専用掲示板である。

- ・団体ごとにアカウントを持ち、自分たちの団体の取り組み（研修会や講演会等）の周知、情報共有を行うことができる。
- ・カテゴリー（便利な連絡帳、医療機関の相談、嬉しかった出来事など）やキーワードでの検索が可能であり、ログインしていない状態では一般公開可能な記事のみが表示される。
- ・ログインすると、新しい記事の投稿とコメント投稿が可能となる。ログインIDは団体が希望するメールアドレス、パスワードは事務局から各団体に付与される予定である。
- ・投稿時には、カテゴリー、タグ、タイトル、掲載期間（期間限定も可能）、本文、そして最大4つの添付ファイルを登録可能である。
- ・投稿された記事にはコメントが可能で、他団体の記事に対してもコメントできる。コメントに対しても返信ができ、やり取りが可能である。
- ・このコミュニティに投稿した記事は、事務局が確認・承認した内容のみが公開されるため、安心して利用できる。

【質疑応答】

- ・群馬県社会福祉会より、団体に付与されるID・パスワードは、その団体の全会員が自由に利用して良いという解釈で良いか質問があった。
→長坂先生より、会員の意見が上がってこないと活性化しないため、その解釈で良いとし、不適切な投稿については事務局がチェックし、ブロックできる仕組みになっているため心配ない旨回答された。
- ・群馬県社会福祉会より、コミュニティにコメントが付いた際に、登録アドレスに通知が来るシステムになっているか質問があった。
→事務局より、通知が来るように業者と調整していると回答した。
- ・鶴谷先生より、この窓口で集まる情報について、健康福祉課だけでなく、介護高齢課など他の部局とも共有できるか質問があった。
→健康福祉課より、登録方法について持ち帰って相談する旨を回答し、介護高齢課にも情報があることを伝えたいと述べた。

(2) 群馬リハビリテーション病院主催 オーダーメイドセミナーのご案内

鶴谷先生より、群馬リハビリテーション病院のオーダーメイドセミナーのご案内があった。

- ・ 同病院は回復期リハビリテーションを専門とし、長年にわたり専門病院として培ったリハビリテーションに関するノウハウを、実習を通じてわかりやすく習得して頂けるプログラムを企画した。
- ・ 研修内容は、一般研修、看護研修、介護研修、リハビリ専門研修 (I/II)、リハビリ特別研修があり、リハビリ経験のない者を含む医療機関の職員であれば誰でも参加可能である。
- ・ 研修は要望に合わせた内容に調整可能であり、感染症対策に関する内容も含めることができる。
- ・ 研修は4時間程度を1日とするカフェテリア形式で、科目を絞って1日研修とすることも、内容を充実させて1泊2日の研修とすることもできる。
- ・ 定員は各テーマとも5名である (4名程度でも融通が効く)。
- ・ 群馬県老人保健施設協会より、先日行われた摂食嚥下障害の研修が、非常に分かりやすく密度の濃い内容であったと高く評価された。
- ・ 研修費用は医師会員の医療機関で4,000円/人/日、その他の医療機関で5,000円/人/日である。

(3) 郡市医師会による心不全連携の取り組みについて

鶴谷先生より、心不全連携の取り組みについて説明があった。

- ・ 心不全は入院患者が多く、再入院の期間が2~3ヶ月と短くなるケースが多く、問題となっている (心不全パンデミック)。
- ・ 特に介護施設での減塩の実施が難しく、再入院の一因となっている。
- ・ 群馬県医師会を中心に「群馬心不全地域連携協議会」が活動しており、心不全に関する講演会を実施している。
- ・ 高齢者ケアにおける心不全の病態と観察のポイントに焦点を当てた講演会が開催されており、体重変化や息切れなど、日常の観察に基づく情報収集が再入院予防に不可欠であることが共有された。

- ・心不全は、コロナパンデミックの後に問題となると言われており、我々がそれぞれの立場で対応していくことが非常に重要であることの説明がされた。

(4) その他

【BCP（事業継続計画）の災害対策について】

- ・群馬県老人保健施設協会より、BCPに関する質問があった。個別施設ごとのBCP策定は進められているが、地震や水害などの大規模災害時における地域全体でのBCP（県が主体となったシステム作りや枠組み）が整備されているか現状を尋ねた。
- ・長坂会長より、地域BCPの重要性は認識しつつも、現状としてその方法論はまだ確立できていないとの回答があり、医療や福祉施設が中心となり、行政とも情報共有しながら、皆で「あってほしい形」を目指して準備を進める必要があると強調した。
- ・群馬県理学療法士協会より、地域リハビリテーション支援センターとして、広域ネットワーク内で災害対策に取り組んでいることが補足された。特に、災害派遣リハビリテーションチーム（J-RAT）と広域支援センターが連携し、ネットワーク構築を進めている。関東地方でJ-RATと災害協定を結んでいないのは神奈川と群馬のみであり、県との連携を目指している段階である。

閉 会

長坂会長は、リニューアルしたホームページを是非皆が使い、各事業所のスタッフ一人一人がアクセスし、情報共有できる場として展開させてほしいと述べ、協議会全体でこのプラットフォームを育てていくことへの協力を求めた。最後に、事務局より、音声トラブルによりスムーズな会議を行うことができなかつたお詫びと、後日、本日のご発言内容をレコーディングより確認し、改めて回答を共有することが伝えられ、閉会となった。